

第4回文京区アカデミー推進協議会分科会(国際交流分野) 議事要旨

日 時	平成27年8月6日(木) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター 1001会議室
委 員	会 長 久松 佳彰 (東洋大学教授) 委 員 森岡 隆 (文京区国際交流フェスタ実行委員会 委員長) 委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会) 委 員 金坂 吉雅 (区民公募委員) 委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
欠 席	委 員 佃 吉一 (公益財団法人アジア学生文化協会 常任理事) 委 員 黒木 美芳 (区民公募委員)
事務局	熱田 直道(アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長、 アカデミー推進部観光・国際担当課長) 増田 一昌 (アカデミー推進部アカデミー推進課国際交流担当主査) 支援事業者 株式会社創建 大谷・氏原
資 料	「次第」及び「第4回分科会の進め方について」 施策体系(案)

議 事

1. 開 会

2. 議 題

新しい体系案ならびに事業の振り分けや「施策体系(案)」を用いて事務局から説明を行った後、意見交換を行った。

久松会長 新しい体系は好ましいと思っている。現行計画は、項目は充実しているが、再掲される事業が多かった。今回は簡素化され、項目ごとにどのような事業をするべきかを考えやすくなった。また、国際交流の現状をとらえているという点でもよいと思う。制約はあるとは思いますが、やれることを少しずつ拡充していけるとよい。新しく担当課長となった熱田委員が、オリンピック・パラリンピック推進担当課長を兼務しているので、オリンピック・パラリンピックと関連付けられるとよい。

金坂委員 基本的な方向2-(2)について、外国人観光客の増加に伴いホテル不足が深刻になっている。オリンピック・パラリンピックの開催年になると、ますます不足するだろう。若い外国人観光客のあいだで自宅を開放している家に泊ることが流行っている。法的には難しい部分もあるようだが、自治体が条例をつくることで解決されると聞いているので、オ

- 鈴木委員 リンピック・パラリンピックを見据えた民宿を検討してみてもどうか。
計画全般に広く関わることになるが、市民が主体とされているが、企業がサポートできることもあるのではないかと。何らか盛り込んでいただけるとよいと思っている。
- 久松会長 現行計画の事業例では、区内産業と連携した事業例が挙げられている。自分の知るかぎり実施はされていないと思うが、検討段階で意見としてはあったのは事実だ。現行計画で示した事業例を、新しい計画で取り組むという考え方もありえると思う。区内産業との連携は、交流機会の拡充や情報共有も該当するだろう。ぜひ検討いただきたい。
- 森岡委員 よくまとまっている。トルコ・イスタンブール市ベイオウル区について書かれているが、自治体間交流の要素が強いので、市民レベルの国際交流として考えることは難しいのではないかと。区民のすることと、行政がやるべきことは区別して考えた方がよいと思う。また、大学などの学校で行われていることも踏まえ、役割分担をするべきだろう。
- 久松会長 自分の勤める東洋大学を例に挙げると、現時点では、学生寮には外国人しか入居していない。秋から日本人も入居できるようにして交流を図ろうと考えている。地元のお祭りを紹介するなど、生活しながら学び合う取組をはじめます。
- 森岡委員 民間企業の支援も大事だと思う。イベントの協賛も考えられる。
- 久松会長 企業市民として取り組んでもらえるとよい。外国人市民を支援する企業を紹介すると、区民が優良企業を知るきっかけにもなる。
- 事務局 ベイオウル区の件は、JICAの助成金を使って防災をテーマに交流を図っている。事業は平成27年度で終了予定だが、今回の交流を足がかりに区民へと交流の輪を広げていきたいと考えている。
- 森岡委員 ぜひそのように検討いただきたい。
- 三谷委員 簡潔で分かりやすくまとめられている。文京区を海外に紹介するときのキャッチフレーズがあるとよい。区民からアイデアを募ればどうか。
- 事務局 観光分野でも、文京区ならではのコンテンツがないという意見が出ている。
- 三谷委員 文京区に何があると聞かれると、自分はラクーアがあると答える。
- 事務局 外国人と区民のとらえ方は異なると思うので、そのずれについても情報収集していきたい。
- 三谷委員 細かいことだが、トルコ大使館で実施していたコーヒー講座を区内でもやってもらいたいと思っている。
- 事務局 区内でできなかったわけではないが、代々木上原の東京ジャーミイというモスクの見学を兼ね、あえて区外で講座を行った。アンケート結果では、大使館に入館できるなど点で好評だった。地元で体験できることもメリットだとは思うが、事業において何を重視するかだと思う。区内

では実現できないこともあるので、目的次第で考えていきたい。

鈴木委員
事務局 普段は入れないところに入れることは喜ばれることだと思う。
過去に区外で事業を行ったことはないので、実験的な事業であったことは事実だ。

事務局 参加しやすさとの兼ね合いだろう。関心がある方は区外まで出かけると思うが、地元で体験したいという方もいるので、考慮しながら事業を検討したい。

三谷委員 あと、東京大学だけ名称が記載されている理由は何か。ほかの大学とも連携してもらいたい。

事務局 外国人向けの目白台宿舎が新しくできることで、特に意見が出たのだと思う。

久松会長 宿舎の規模が大きいと聞いている。東洋大学の寮は40～50名ぐらいの入居者だが、目白台宿舎は1,000世帯入るそうだ。

事務局 全員が外国人留学生・職員ではないようだが、7割ぐらいにはなると聞いている。文京区の外国人居住者が1割程度増える。大きな街区ができるイメージを持っている。

鈴木委員 留学生と盛り上がるイベントがあるとよい。

久松会長 目白台宿舎の存在感は大きいので、国際交流の起爆剤にすることは大事だと思う。

森岡委員 交流機会の充実のための地域資源を活用しようとするとき、UN Womenは活用できるのか。位置づけはどのようなものなのか。

事務局 地域資源の活用については様々な意見をいただいたので、方法を検討する必要を感じている。UN Womenの事務所は一般人が入れるわけではない。設置趣旨も、国際交流ではなく、女性の地位向上であるので、活用できるかどうか考える必要がある。先方の目的も考え合わせて、連携を図る必要があるので、現時点では大々的には言えないだろう。

鈴木委員 起爆剤になりそうではあるが、交流というイメージは感じられない。

事務局 体系案を検討する上で、様々な意見をいただくことができ、うれしく思っている。外国人留学生のヒアリングで情報が届いていないという意見が示されたが、できるかぎりPRを行っているつもりなので残念だ。外国人にかぎらず日本人もPRは課題になると思う。全体協議会で意見をいただき、アカデミー推進計画として強い打ち出しができるとういと思う。

鈴木委員 今後のことを考えると、若い世代が中心になると思う。まずは若い人たちが集まることから始まるのではないか。

久松会長 留学生に関しては、入寮時のオリエンテーションの際にFacebookやtwitterに登録してもらおうようにすれば、プッシュ型の情報発信につながる

と思う。難しい部分もあるとは思いますが、検討してもらいたい。

事務局 様々な情報発信ツールが利用できる状況にあるので、そういったものは活用したいと思う。多言語対応を考えても、新しいツールの利用は大事だろう。

三谷委員 地方から上京してきた日本人の大学生も、区内の情報を得られないまま卒業しているかもしれない。外国人だけでなく、日本人向けの情報発信にもなるような取組を考えてもらいたい。

事務局 ところで、国際交流フェスタで英語を遊びながら学ぶブースがあったが、企業出展なのか。

三谷委員 区内で外国人が経営しているプレスクールがブースを出していた。宣伝は控えるように話していた。

久松会長 色々な立場の人が関わった方が参加者が多様になるので、企業も関わる方がよいと思う。

金坂委員 これまでいただいた事業につながる意見をもとに、新しい計画での事業案が検討される。何か意見があれば聞きたい。

事務局 外国人居住者のアパートについて、保証人がいないために外国人がアパートを借りられないことがあると聞いている。区の事業として、外国人用の部屋を確保し、住んでもらうことはどうか。

三谷委員 国際交流の枠組みでどこまでできるか分からないが、保証人がいないと借りられないのは、家賃滞納の可能性が問題視されるのか。

金坂委員 民間サービスを使ってはどうか。

事務局 民間サービスも使いにくいと聞いている。

鈴木委員 外国人に対する偏見に起因するのであれば、それを解消していくことは国際交流の大きな目的なので、範疇に入ることだと思う。

事務局 大家が外国人のマナーを気にしているのではないかと聞いている。

鈴木委員 外国人居住者のマナーについては耳にする。日本での生活マナーを伝えていくのが大事だと思う。

久松会長 国際交流フェスタの充実と記載されているが、具体的にはどのようなイメージか。

鈴木委員 複数回開催してはどうかという意見が出されていた。

久松会長 開催回数だけなのか。

三谷委員 複数回開催することで、出展者として参加する外国人も参加者になることができるので、内容面も充実するという意見だった。

事務局 生活マナーの話にもどるが、ゴミの出し方を案内は何か国語で行っているのか。

三谷委員 転入時に配布する「わたしの便利帖」は、日本語のルビふりのほか、英語、中国語、ハングルに翻訳している。そのなかにゴミの出し方に関する説明チラシがあり、同じく3か国語に翻訳している。

- 三谷委員 一目で情報が入ってこないのでは、見ようと思わないという声も聞く。より分かりやすく、ていねいに案内した方がよいと思う。工夫の余地はあるのではないか。
- 事務局 外国人にかぎらず、効率的な案内のあり方は、難しい課題だと思う。
- 鈴木委員 地域ごとにゴミ出しの曜日が異なり、出し方も微妙に違うので、地域ごとに対応した方がよいと思う。
- 事務局 外国人だからルールを守らないというのは誤解だと思う。そういう外国人もいるとは思いますが、知らないままルール違反をしている例もあるだろう。本来は守ろうとする人であれば、周囲のサポートがあれば守ってもらえると思う。
- 三谷委員 アジア学生協会では学生に細かく指導していると聞く。自分も、アパートを外国人に貸しているが、細かく説明し、日常的にコミュニケーションもとっている。そういう取組が大事なのだと思う。
- 鈴木委員 病院は自分で調べるものだと思うが、区で外国語が通じる病院を紹介できると素晴らしいと思う。
- 事務局 韓国人コミュニティはしっかりしていると聞くが、国によって様子が違うと聞く。同じ国の出身者同士で助け合うこともあれば、いたれりつくせりしてもらわなくてもよいという外国人もいる。支援が必要ないという話ではないが、様々な意見がある。
- 久松会長 施策体系は、国際交流と外国人支援の2本となっているが、簡潔でよいという認識で一致しているということではどうか。第3回協議会にて、国際交流という言葉が目標に使われていないという意見があったが、国際交流の目的が国際理解であると考えてよいと思っている。この施策体系に基づき、これまでの意見を踏まえ事務局で事業案が検討され、次回の協議会で示されることになる。
- 金坂委員 最後の分科会なので、委員から感想など話をいただきたい。
- 鈴木委員 基本的な方向1-(3)について、情報の発信に「収集」「共有」という言葉が追加されたことはよいと思う。
- 鈴木委員 文京区は大学が多いことが特徴のひとつなので、学生・留学生を活用して、文京区の心の国際化が進められるとよい。国際交流は一部の人だけでやっているイメージがあるので、多くの人が関わることでできるオープンな感じのする事業があるとよい。
- 久松会長 間口を広げ、敷居を下げることには賛成だ。
- 森岡委員 小規模でよいので、国際交流ができるスペースがあると発展性があると思う。文京シビックセンターの17階に行けばよいのだと思うが、アクセスのよい1階にスペースがあると可能性が出てくると思う。姉妹都市の交流の活性化は必要だろう。カイザーслаウテルン市と提携してから30年近く経つが、窓口となっている民間団体はあるのか。区民がか

かわることのできる体制があると、行政から区民へと機会が広がると思う。ベイオウル区との交流も発展させられるとよい。

三谷委員 区民が落ち着いて交流している雰囲気を保っていききたい。何かアイデアがあるわけではないが、話し合いを重ねるとアイデアを出るのではないか。

久松会長 黒木委員は欠席だが、交流している区民はたくさんいるので、そういった活動を発掘し、つなげていくとよいという意見を出していたと記憶している。佃委員は留学生の活用について言及していたと思うので、その点も考慮いただきたい。

事務局 担当者の立場から、ひとつは、区民や区の資源などと連携を図りながら国際交流を充実していくことが重要なポイントだと思っている。いただいた意見を参考に進めたい。もうひとつは、基本的な方向1-(2)は基本的には自治体間交流が基本になるが、民間ではできないこともあると思うので、行政としてしっかり活動を行い、その成果を区民に還元したい。区民・団体と連携して盛り上げていけることと、区でしかできないことの両面で取組を進めたい。

熱田委員(事務局) 新たに国際交流担当課長になって3週間ほど経つが、まったく知らなかった業務領域なので、すべてが新しい。何十年も外国人と話をしてこなかったなので、気持ちの面で臆することがある。まさにマインドが大事なのだと思う。交流のハードルを下げ、たくさんの機会があれば、マインドが醸成されるとは思いつつも、体制上、どれだけ機会を設けることができるか悩ましい。オリンピック・パラリンピックで区内の外国人は増えると思う。それをきっかけとして、大会終了後も継続して取り組んでいけるようにしたい。

久松会長 経済学の分野では、オリンピック・パラリンピックを開催すると国際貿易が伸びることが実証されている。オリンピック・パラリンピック開催が、国を世界に開くというメッセージになっているようだ。この時期に国際交流に取り組む上では、世界に開いていくためにはどうすればよいのかと考えたい。

今回、4つの基本目標が示された。生涯学習分野の目的は、すべて基本目標と関連付けられたと聞いているが、国際交流も同様だと認識している。次回協議会でも、計画全体の構成から各分野の検討も深められるとよいと思っている。

また、評価しやすい計画にしておく、事業評価が適切に行われ、改善点も分かるので、計画推進がやりやすくなる。難しいとは思いますが、検討してもらいたい。

3. 閉会

以上